
令和元(2019)年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和元(2019)年11月14日
栃木県農業環境指導センター

ネギハモグリバエ別系統のねぎでの発生について

1 害虫名 和名：ネギハモグリバエ別系統
学名：*Liriomyza chinensis* Kato

2 発生作物名：ねぎ

3 発生経過

(1) 令和元(2019)年9月に宇都宮市及び下野市のねぎほ場において、葉がネギハモグリバエ幼虫に激しく食害され、白化する症状が確認された(写真1)。被害状況から他県で発生が確認されているネギハモグリバエ別系統による被害と類似していたため、農業・食品技術総合研究機構 東北農業研究センターに遺伝子解析を依頼した結果、従来の系統(以下、「A系統」と略記)とは異なる別系統(以下、「B系統」と略記)であることが判明した。県内では9月に真岡市、上三川町、高根沢町においても、ねぎほ場で同様の被害が確認されている。

(2) 分布及び発生状況

B系統の発生は、平成28(2016)年頃から京都府で被害が確認されており、令和元(2019)年に京都府、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県及び新潟県において特殊報が発出されている。

4 被害の特徴

幼虫が葉中に潜り込んで食害し、食害後は白い筋状の潜孔を形成する。A系統では1葉あたり1~数匹程度で加害するのに対し、B系統では1葉あたり10匹以上の幼虫で集中的に加害する傾向がある。B系統に食害されると、ひどい場合は葉全体が白化する。

5 形態

ネギハモグリバエのA系統とB系統は、形態による識別が困難である。両系統とも成虫の体長は約2mmであり、胸部と腹部が黒く、その他の部分は淡黄色である(写真2)。幼虫はうじ虫状で、成長すると体長約4mmに達する(写真3)。蛹は体長約3mmの褐色、俵状である。

6 生態

両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表または土中で蛹となる。20~30℃の温度条件下では、B系統の発育所要日数はA系統に比べて短い。

7 防除対策

- (1) 発生を認めたら、表1を参考にして、ネギハモグリバエに適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さはほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い、裾部分を土で埋める等適切に処分する。

表1 ネギのネギハモグリバエ防除に使用できる主な薬剤（※はハモグリバエ類で登録）

農薬の名称	希釈倍数・使用量	使用時期	使用方法	IRACコード
ベストガード粒剤	6kg/10a	収穫前日まで	株元処理	4A
ダントツ粒剤	3～6kg/10a	収穫3日前まで	株元散布	4A
スタークル粒剤※	6～9kg/10a	生育期 ただし、収穫3日前まで	株元散布	4A
アルバリン粒剤※				
カスケード乳剤	4000倍	収穫14日前まで	散布	15
アフーム乳剤※	1000倍	収穫7日前まで	散布	6
リーフガード顆粒水和剤	1500倍	収穫7日前まで	散布	14
ディアナ SC	2500～5000倍	収穫前日まで	散布	5
アグリメック	500～1000倍	収穫3日前まで	散布	6
ベネビア OD※	2000倍	収穫前日まで	散布	28
ペリマーク SC※	400倍	育苗期後半～定植当日	灌注	28
	2000倍	収穫7日前まで	株元灌注	

(令和元(2019)年10月31日現在)



写真1 激しい食害により白化した葉



写真2 ネギハモグリバエ成虫



写真3 白化した葉に食入する幼虫（赤枠内）

8 引用文献

徳丸晋・上杉龍士(2019):植物防疫 第73巻第9号 43～45.

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センター ホームページ（<http://www.jpnn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。